

# 令和元年度実績概要

# 1 令和元年度の実績概要

令和元年度は、鎌倉の観光が気候変動により大きな影響を受けた1年となりました。

従来であれば多くの海水浴客で賑わう7月は、悪天候による気温低下などにより大幅に海水浴客が減少し、9月・10月には関東地方に大きな爪痕を残した令和元年度台風第15号及び第19号により、様々な被害が発生しました。

市内各所で倒木等が発生し、これにより、社寺や観光施設の一部が一時的に閉鎖となりました。市の紹介するハイキングコースでは、通行が非常に危険な状況が生じ、令和元年度中は、すべてのハイキングコースについて通行禁止にせざるを得ないほどの被害となりました。

一方で、近年、国が推進を続けているインバウンド施策については引き続きその効果を発揮しており、令和元年の訪日外国人旅行客数は約3,188万人と、平成30年の3,119万人から2.2%増加して、統計開始以来最多客数を更新するなど、訪日外国人旅行者の増加は堅調を維持していました。

しかしながら、オリンピックイヤーとなる2020年を迎えると、新型コロナウイルス感染症が世界的なパンデミックを引き起こし、今まで堅調を維持してきた訪日外国人旅行客数は、2月には前年比約41.7%。3月には約7%と急落しました。

当該感染症の流行により、日本国内においても首都圏をはじめとする様々な地域で不要不急の外出自粛や、政府からは渡航の自粛要請がされ、これを受けて催事・イベントが相次いで中止・延期となるなど、観光のみならず、様々な経済活動に対して大きな打撃を与えました。鎌倉においても、春の大きな祭りである「鎌倉まつり」の中止が決定されるなど、その影響は計り知れません。

未だ今後の見通しが立たない状況ではありますが、このような時こそ「第3期鎌倉市観光基本計画」に基づいて、「成熟した観光都市鎌倉」を目指す取り組みを着実に進めていくことが必要と認識しています。

目標Ⅰ「歴史、文化、自然、景観といった様々な遺産を保存・継承しつつ、知られざる鎌倉の魅力や価値を掘り起し、新たな観光資源として発展・向上させます。」

目標Ⅱ「成熟した観光都市としての鎌倉に市民が誇りや郷土愛を感じつつ、安心して穏やかに暮らせるまちをつくりまします。」

目標Ⅲ「誰もが安全で快適につつがなく鎌倉で学び楽しめるように、観光客を受け入れます。」

目標Ⅳ「観光の振興を地域の活性化につなげます。」

鎌倉の持つ様々な魅力や価値が世界に誇る貴重な財産であることを認識し、観光に携わるあらゆる主体が連携・協力して、誰もが「住んでよかった、訪れてよかった」と思える成熟した観光都市を目指します。

目標Ⅰ「歴史、文化、自然、景観といった様々な遺産を保存・継承しつつ、知られざる鎌倉の魅力や価値を掘り起し、新たな観光資源として発展・向上させます。」

目標Ⅰは、鎌倉の持つ歴史的・文化的遺産や、美しい自然景観の保持に努めつつ、それらを観光資源として発展及び向上させることを目標としています。

令和元年度もこれらの遺産を保持し継承するため、「鎌倉まつり」や「鎌倉花火大会」、「鎌倉薪能」など伝統的な催事、神事に関して、運営元の鎌倉市観光協会へ補助金を支出するほか、海水浴場の運営及びハイキングコースの維持管理・台風被害からの復旧を行うとともに、市内ボランティアガイド団体と協働で、観光課のツイッターを通じて、市内の様々な地域の持つ知られざる魅力を発信しました。

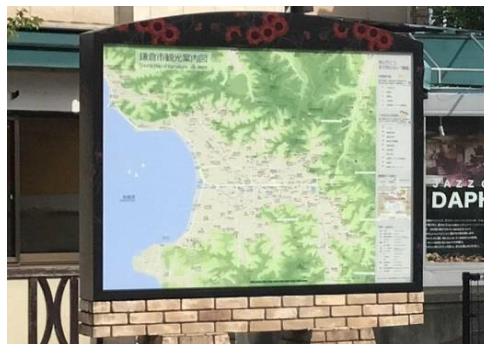
また、分散型観光の推進を図るため、クラウドファンディング<sup>\*1</sup>の仕組みを活用して平成28年度から看板15基を市内各所に設置してきました。

令和元年度は、当該看板の周知を行う事により一層の分散型観光の推進を図るため、JR 鎌倉駅西口時計台広場の観光総合案内板を当該看板の位置を落とし込んだものに改修しました。

なお、この看板には、鎌倉の伝統工芸である鎌倉彫を想起させるデザイン・色調をあしらい、そのなりたちも併せて紹介することで、文化遺産の保存・継承にも寄与するものとなっています。



ハイキングコース台風被害状況



鎌倉駅西口時計台広場観光総合案内板

<sup>\*1</sup> 群集 (crowd) と資金調達 (funding) を組み合わせた造語であり、ある目的、志などのために不特定多数の人から資金を集める行為又はそのためのネットサービスのことをいう。

目標Ⅱ「成熟した観光都市としての鎌倉に市民が誇りや郷土愛を感じつつ、安心して穏やかに暮らせるまちをつくります。」

目標Ⅱは、市民生活と観光振興の両立を図り、市民の観光に対する理解を向上させることで、成熟した観光都市鎌倉をつくりあげることが目標としています。

令和元年度は、4月1日に施行した「鎌倉市公共の場所におけるマナーの向上に関する条例」の内容と趣旨について理解の促進と認知度の向上を図るべく、周知啓発ポスター及びチラシの作成、既存の看板や観光パンフレットに条例の内容をピクトで掲載することで周知に取り組みました。

ゴールデンウィーク期間中は観光客が多く来訪することから、鎌倉駅周辺の複数地点において混雑状況をツイッターで発信し混雑地点を避けるよう注意喚起することで、観光客の殺到を防ぐ対策を行いました。

また、12月14日に鎌倉市制80周年事業「源頼朝公シンポジウム」を開催しました。作家の伊東潤氏を招き、源頼朝公の功績に関する講演会と、鎌倉の歴史を専門とする研究者3名にご登壇いただき、現在の鎌倉市に至るまでのまちの形成について座談会を行い、約80名の来場者の皆様と共に、歴史的遺産と共生する都市鎌倉について改めて考える場となりました。



マナー条例周知ポスター



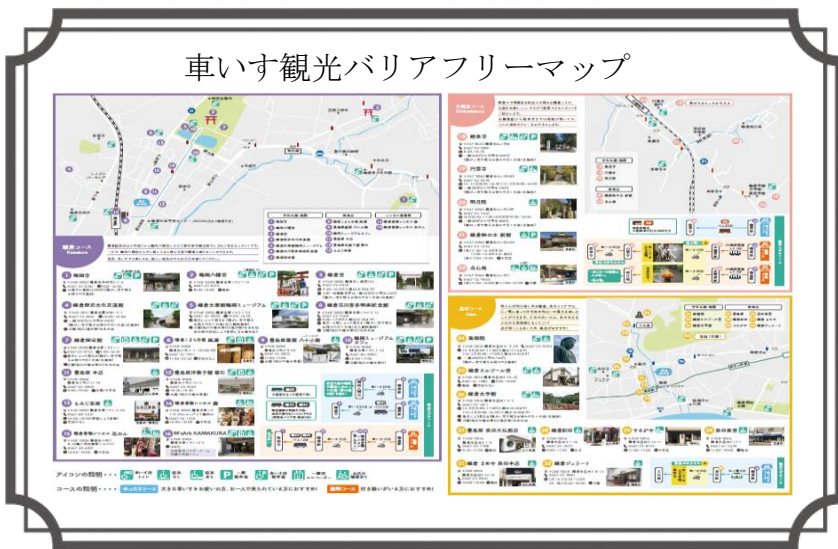
**目標Ⅲ「誰もが安全で快適につつがなく鎌倉で学び楽しめるように、観光客を受け入れます。」**

目標Ⅲは、観光の形態や属性に関わらず、観光客の誰もが鎌倉の観光に対して高い満足感を抱き、安全で快適な環境のもと鎌倉の魅力や価値を学び楽しむことができることを目標としています。

令和元年度は、協働事業により平成28年度から継続している「外国文化・宗教対応支援事業」について、応募のあった市内店舗経営者に対して訪問のうえヒアリングを行い、翻訳メニューの作成と配布を行いました。

また、新たな協働事業として「車いす観光バリアフリーマップ作成事業」を開始し、鎌倉駅・北鎌倉駅・長谷駅周辺地域に特化した車いすの方向けの観光地図を作成しました。

その他にも、平成31年度に開設した観光課及び観光協会の統合ホームページ「鎌倉観光公式ガイド」では、観光情報の提供に併せて海水浴場開設期間の海岸状況の発信や、現在一部閉鎖中のハイキングコースに関する復旧状況の更新など、利用者に対して迅速かつ正確な情報発信を行うよう努めています。



鎌倉観光公式ガイド

目標Ⅳ「観光の振興を地域の活性化につなげます。」

目標Ⅳは、観光の振興や観光産業に携わっている民間事業者や関係団体が、その活動にやりがいを感じ活躍することができる地域社会の生成を目標としており、「歩く観光」「泊まる観光」を推進することでより多角的な観光消費の拡大を目指しています。令和元年度は、毎月発行の情報紙「鎌倉みどころ散歩」やホームページ「鎌倉観光公式ガイド」による朝まいたりや早朝の体験型観光の紹介を行い、推進すべき観光資源の周知に努めました。

